

医学英語の語彙力の強化を目指す効果的な教育方法についての考察

菅 原 美 佳

1. はじめに

東北医科薬科大学（旧東北薬科大学）には2016年に医学部が新設され、「医学英語」の授業が始動して今年度は2年目となる。本学の英語教員は1年次前期後期および2年次後期の医学英語を担当している。医学生は、熾烈な受験戦争を乗り越えて大学に入学してきているため、高校までに学ぶ「一般英語」に関しては既に高い学力を持っているが、彼らは大学で本格的に「医学英語」を学び始めると、一般英語と医学英語との間の壁にとまどいを感じている様子が見られる。そのほとんどが語彙の面である。

本稿では、一般英語と医学英語との間になぜそのような壁があり、1・2年次のうちにその壁を少しでも取り払うために、どのような教育をすれば良いかについて考察する。具体的には、医学英語の単語は、その内部構造を見ていくと幾つかの形態素（接辞、語根などの構成要素）に分解できること、そして「単語」ではなくこれらの「形態素」に主眼を置いた教育方法が、学生の語彙力やその応用力を効率的に高めることができることを示す。

2節では、医学英語の語彙の特徴と、効率的な習得方法について考察する。3節では、2節で述べたことを、医学用語の形態素を列挙しながら具体的に見ていく。4節では、この形態素の知識が実際、どのように応用できるかということを示す。5節はまとめである。

2. 医学英語の語彙の特徴および習得について

医学生は、大学受験時代の習慣から、一つ一つの医学用語を丁寧に記憶

しようと努力するが、それらはほとんどが見慣れない単語である上に、複雑な綴りであることが多いため、学習のしにくさを感じている様子が見られる。また習得すべき語数が多いため、ただやみくもに暗記するのは大半の学生にとって苦痛である。¹ 加えて、学生はテストのために一時的にそれらを丸暗記したとしても、テストが終わればすぐに忘れてしまい、教育効果はあまり期待できない。また何より、彼らは授業や課題提出、実習、試験などのスケジュールが過密で、英語の学習にあまり時間が割けないという現状がある。

そこで本稿では、医学用語の語形成に着目し、その構成要素を集中的に覚えれば、あとはその知識を総動員しながら語の意味を推測すれば良いという、効率的で応用の利く学習方法について考察する。

そのために、ここでまず、医学用語や英語に限らず、自然言語における語形成（語の成り立ち）について見ておく。言語における「語」(word)は、意味と機能を持つ最小の単位である「形態素」(morpheme)から成る。形態素は、単独で現れることのできるものと、必ず他の語に付加する拘束形態素 (bound morpheme) とに分けられる。拘束形態素には、語の前に付く接頭辞 (prefix) や、後ろに付く接尾辞 (suffix) などがある。また、接辞が付く相手は語根 (root) である。たとえば *ungentlemanliness* (*un-gentleman-li-ness*) という語は、*gentleman* という語根に、*un* という接頭辞と、*li* および *ness* という接尾辞が付加された形である。

これは医学用語でも同様であり、例えば *arthritis* (関節炎) という語の形態素を見ていくと、*arthr* (関節) という語根に、*itis* (～炎) という接尾辞が付加されてできている。このような形態素を用いると、長い表現を短く

¹ 南山堂医学英和大辞典に収録されている医学用語は25万語あり、またそれより収録語が少ないステッドマン医学大辞典でも10万語もある。

表すことができる。例えば、医療関係者ではない一般の人向けに用いる表現である abnormal heart rhythm（不整脈）を、医学用語では arrhythmia と短く表現することができる。ここで ar は否定を表す接頭辞、rhythm はリズム（脈）、ia は病的状態を表す接尾辞である。

医学用語には、ある限られた種類の、医学に特有の形態素が多用されているという特徴がある。これらの形態素は、後述するように、ギリシャ語やラテン語由来のものが多いため、一見すると難しそうである。だが、医学用語に使われる形態素の種類自体はさほど多くないため、必要な知識を短期間で蓄えることができる。本稿は、この、医学に特有の形態素を覚えることが、医学英語の語彙力を強化する近道になると考える。

この学習方法は、あとで4節で見るように、初めて見た単語でも意味が推測しやすく、限られた時間で無限に近い医学用語を習得することができるという利点がある。また、それらの接辞は頻繁に使われるため、授業に出てくるたびに教員が解説することで、学生の記憶の定着を助けることもできる。では次節において、医学英語の形態素について具体的にみていくことにする。

3. 英語の医学用語の語形成について

3.1. ギリシャ語やラテン語の影響

英語の医学用語を見ていくと、「arteriosclerosis」（動脈硬化（症））や「arrhythmia」（不整脈）など、英語でありながらも英語ではないような難しさを感じるものが多い。それはおそらく、医学用語が、英語のみならずギリシャ語やラテン語が語源になっているものが多いためであろう。ではなぜ、そのように他言語の影響が見られるのだろうか。

現代医学は、「医学の父」と言われるヒポクラテス（BC460～377年頃）の時代に、古代ギリシャで始まった。当然、医学文献はギリシャ語で執筆

されていた。その後、ローマ帝国の繁栄によりラテン語が普及し、ギリシャ語の医学用語の多くがラテン語に翻訳されたり、ラテン語で新しく医学用語が作られたりした。後にラテン語は、日常の言語としてはほとんど使われなくなったが、学術語としてはそのまま残ることとなった。また、14～16世紀にルネサンス（ギリシャ・ローマの古典文化を復興させようとする運動）が西欧で盛んになると、英語圏にも、大量のギリシャ語・ラテン語が取り入れられた。さらに19世紀頃になると、医学のめざましい発展に伴い、新しい医学用語を大量に作る必要に迫られ、英語圏では、英語、ギリシャ語、ラテン語などを組み合わせてさまざまな医学用語が作られていった。²

このような背景を考えると、英語の医学用語を学ぶ際に、ギリシャとラテン語の影響を理解しておくことは必須であろう。³ 以下では、医学部低学年の段階でギリシャ語とラテン語についての知識を「少し」身につけるだけで、その後の医学英語の習得が簡単になっていき、同時に応用力も身につけることができることを示していく。

3.2. 英語の医学用語の形態素について

英語の医学用語は、(i)接頭辞 (ii)語根 (iii)接尾辞 (iv)連結母音 という形態素の全てもしくはその幾つかから合成されているものが多い。(i)～(iii)はほとんどがギリシャ語かラテン語が語源になっている。

「arteriosclerosis」（動脈硬化（症））を例に取る。この長い単語を覚えるの

² 平井（2011）、清水（2011）、吉田（2008）等を参照。

³ ちなみに、英語の医学用語は、ギリシャ語とラテン語以外の言語の影響も受けている。北欧語（ill, leg, skin等）、フランス語（poison等）、イタリア語（influenza, malaria等）、スペイン語（quinine等）、アラビア語（alcohol, syrup等）、オランダ語（cough等）などである。吉田（2008）参照。

は苦勞するが、その構成要素である arteri（動脈）、o（連結母音）、scler（硬化）、osis（～症）という短い形態素を覚えるのは比較的、簡単である。そして、それらの短い形態素を使った別の単語である「**arteritis**」は動脈炎、「**cerebroscclerosis**」は脳硬化症などと、応用も利く。

同様に、「**arrhythmia**」（不整脈）という単語を初めて目にしたとしても、「**ar**」が「不」、**rhythm**が「リズム（脈）」、「**ia**」が「病的状態」という知識があれば、それぞれの知識をつなぎ合わせて「不整脈」というように意味が推測しやすい。

また、「**arteriosclerosis**」という単語自体は授業で使うテキスト中に頻繁に出てくるわけではないが、**arteri**や**osis**などの形態素の方は、さまざまな形で何度も繰り返し出てくるため、そのたびに教員が解説をすることで、学生の記憶の定着を助けることができる。

では、以下で(i)～(iv)をそれぞれ具体的に見ていくことにする。⁴ ここではよく使われる形態素を108個挙げる。多いという印象があるかもしれないが、「**arteriosclerosis**」や「**arrhythmia**」などの長い単語を10万語覚える労力に比べれば、形態素を覚えるのは、はるかに容易であろう。

(i) 接頭辞（prefix）：語根の前に付く。数や位置を表すものが多い。

[表 1]

	接頭辞	意味（英語）	語源	用例
1	a- (母音またはhの前ではan-、rの前ではar-)	不、無、欠乏 (un-, in-)	ギリシャ語	anemia （貧血）, arrhythmia （不整脈）

⁴ 表(1)～(3)については小林(1988)、佐藤(2005)、ステッドマン(2008)、津波古(2011)、日本医学英語教育学会(2015)、平井(2011)、吉田(2008)などを参照。

2	ab-	～から離れた (away from)	ラテン語	abnormal (異常な)
3	ad-	近接 (near)、方向 (toward)	ラテン語	adrenal (副腎の)
4	anti-	反、対、抗 (against)	ギリシャ語	antibody (抗体)
5	bi-	2 (two, both, double)	ラテン語	bilateral (両側の)
6	co- / -con	共に (with, together)	ラテン語	coenzyme (補酵素)、 conjunctiva (結膜)
7	contra-	反、対 (against)	ラテン語	contraindication (禁忌)
8	dys-	障害、異常、困難 (difficult, bad)	ギリシャ語	dysfunction (機能障害)
9	endo-	内 (within)	ギリシャ語	endoscope (内視鏡)
10	epi-	上 (upon)	ギリシャ語	epigastric (上腹部の)
11	hemi-	半分 (half)	ギリシャ語	hemiplegia (半身麻痺)
12	hyper-	上、高い、過剰、超 (above, excessive)	ギリシャ語	hypertension (高血圧)
13	hypo-	下、低い、(under, below)	ギリシャ語	hypotension (低血圧)
14	inter-	間、相互 (between)	ラテン語	intercellular (細胞間の)
15	intra-	内 (within)	ラテン語	intracellular (細胞内の)
16	mal-	悪い (bad, wrong, ill)	ラテン語	malfunction (機能不全)
17	para- / par-	副、近い、異常 (beside, near, around, abnormal)	ギリシャ語	parasympathetic (副交感神経)、 paranoia (パラノイア (妄想症))
18	peri-	周囲、近い (around)	ギリシャ語	periarterial (動脈周囲の)
19	pre-	前 (before, in front of)	ラテン語	preoperative (術前の)
20	pro-	前 (before, in front of, forward)	ギリシャ語	prognosis (予後 (医学上、前もってわかる見通し))
21	retro-	後方 (backward, behind)	ラテン語	retrograde (退行性の)
22	semi-	半分 (half)	ラテン語	semicoma (半昏睡)
23	sub-	下 (under, below)	ラテン語	subarachnoid (クモ膜下の)
24	super-/ supra	上、超、過剰 (above, beyond, over)	ラテン語	supersonic (超音波の)、 supraclavicular (鎖骨上の)
25	sym- / syn-	共に (together)	ギリシャ語	sympathy (共感、交感)
26	trans-	通る、越える、横切る (through, across)	ラテン語	transmission (伝染)
27	tri-	3 (three)	ギリシャ語、 ラテン語	tricuspid (三尖弁)
28	uni-	1 (one, single)	ラテン語	unilateral (片側の)

(ii) 語根 (root) : 語の核となる要素。これに接頭辞や接尾辞などが付くことにより語が形成される。身体の部位を表すものが多い。

[表 2]

	語根	意味 (英語)	語源	用例
1	abdomin-	腹部 (belly)	ラテン語	abdominal (腹部の)
2	adren-	副腎 (adrenal)	ラテン語	adrenocortical (副腎皮質の)
3	angi-	血管 (vessel)	ギリシャ語	angiopathy (血管障害)
4	aort-	大動脈 (aorta)	ギリシャ語	aortitis (大動脈炎)
5	arteri-	動脈 (artery)	ギリシャ語	arteriosclerosis (動脈硬化 (症))
6	arthr-	関節 (joint)	ギリシャ語	arthritis (関節炎)
7	aur-	耳 (ear)	ラテン語	auricle (耳介)
8	bronch-	気管支 (bronchus)	ギリシャ語	bronchitis (気管支炎)
9	carcino-	癌 (cancer)	ギリシャ語	carcinogen (発癌性物質)
10	cardi-	心臓 (heart)	ギリシャ語	cardiomyopathy (心筋症)
11	cephal-	頭 (head)	ギリシャ語	cephalgia (頭痛)
12	cerebr-	大脳 (cerebrum, brain)	ラテン語	cerebral (大脳の)
13	chol-	胆汁 (bile)	ギリシャ語	cholangiography (胆管造影法)
14	colo-/coli-	結腸	ギリシャ語	colon (結腸)
15	crani-	頭蓋 (cranium, skull)	ギリシャ語	craniotomy (開頭術)
16	cyst-	嚢胞、膀胱 (bladder, cyst)	ギリシャ語	cholecystitis (胆嚢炎)
17	dent-	歯 (tooth)	ラテン語	dentist (歯科医)
18	derm-	皮膚 (skin)	ギリシャ語	dermatitis (皮膚炎)
19	duoden-	十二指腸	ラテン語	duodenectomy (十二指腸切除術)
20	encephal-	脳 (brain)	ギリシャ語	encephaloma (脳腫瘍)
21	enter-	腸 (intestine, bowel)	ギリシャ語	enterobacterium (腸内細菌)
22	esophag-	食道 (esophagus, gullet)	ギリシャ語	esophagitis (食道炎)
23	gastr-	胃、腹部 (stomach)	ギリシャ語	gastrointestinal (胃腸の)
24	glyc-	糖 (sugar)	ギリシャ語	glycogen (グリコーゲン)
25	hemo- / hemat-	血液 (blood)	ギリシャ語	hematuria (血尿)
26	hepat-	肝臓 (liver)	ギリシャ語	hepatitis (肝炎)
27	hyster-	子宮 (hysteria, uterus, womb)	ギリシャ語	hysterectomy (子宮摘出術)
28	laryng-	喉頭 (larynx)	ギリシャ語	laryngitis (喉頭炎)
29	leuk-	白色 (white)	ギリシャ語	leukemia (白血病)
30	lip-	脂肪、脂質 (fat)	ギリシャ語	lipid (脂質)
31	lymph-	リンパ (lymph)	ラテン語	lymphocyte (リンパ球)
32	mamm-	乳房 (breast)	ラテン語	mammalgia (乳房痛)
33	mening-	髄膜 (meninges)	ギリシャ語	meningitis (髄膜炎)

34	my-	筋肉 (muscle)	ギリシャ語	electromyography (筋電図)
35	myel-	骨髄、脊髄 (medulla, mallow, spinal cord)	ギリシャ語	myelitis (脊髄炎、骨髄炎)
36	neph-	腎臓 (kidney)	ギリシャ語	nephrosis (ネフローゼ)
37	neur-	神経 (nerve)	ギリシャ語	neurocyte (神経細胞)
38	ocul-	眼 (eye)	ラテン語	oculomotor (眼球運動の)
39	ophthalm-	眼 (eye)	ギリシャ語	ophthalmology (眼科学)
40	oste-	骨 (bone)	ギリシャ語	osteoporosis (骨粗鬆症)
41	ovari-	卵巣 (ovary)	ラテン語	ovarian (卵巣の)
42	pancreat-	膵臓 (pancreas)	ギリシャ語	pancreatopathy (膵臓疾患)
43	pharyng-	咽頭 (pharynx)	ギリシャ語	pharyngitis (咽頭炎)
44	prostat-	前立腺 (prostate)	ギリシャ語	prostatomegaly (前立腺肥大)
45	pneum-	肺 (lung)	ギリシャ語	pneumonia, pneumonitis (肺炎)
46	pulmo-	肺 (lung)	ラテン語	pulmonary (肺の)
47	radio-	放射線 (radiation)	ラテン語	radiology (放射線医学)
48	rect-	直腸 (rectum)	ラテン語	rectal (直腸の)
49	sigmoid-	S 状結腸 (sigmoid)	ギリシャ語	sigmoiditis (S 状結腸炎)
51	splen-	脾臓 (spleen)	ギリシャ語	splenic (脾臓の)
52	sympath-	交感神経 (sympathetic nerve)	ギリシャ語	sympathetic (交感神経の)
53	tonsill-	扁桃 (腺) (tonsil)	ラテン語	tonsillitis (扁桃 (腺) 炎)
54	trache-	気管 (trachea)	ギリシャ語	tracheotomy (気管切開術)
55	tubercul-	結核 (tuberculosis)	ラテン語	tuberculoma (結核種)
56	ur- / urin-	尿 (urine)	ギリシャ語	uroscopy (尿検査)
57	vas- / vascul-	血管、脈管 (vessel)	ラテン語	cardiovascular (心臓血管の)
58	ven-	静脈 (vein)	ラテン語	splenic (脾臓の)

(iii) 接尾辞 (suffix)：語根の後に付く。状態や症状を表すものが多い。

[表 3]

	接尾辞	意味 (英語)	語源	用例
1	-algia	痛み (pain)	ギリシャ語	gastralgia (胃痛)
2	-ectomy	切除術、摘出術 (excision)	ギリシャ語	gastrectomy (胃切除術)
3	-emia	血液の状態 (blood)	ギリシャ語	hyperglycemia (高血糖)
4	-genic	～性の、源、原 (origin)	ギリシャ語	pathogenic (病原性の)
5	-gram	～図 (drawing)	ギリシャ語	electrocardiogram (心電図)

6	-graphy	～(記録、検査、造影、撮影)法 (drawing)	ギリシャ語	electrocardiography (心電図記録法)
7	-ia / -iasis / -osis	病的状態、～症 (state of illness)	ギリシャ語	insomnia (不眠症), urolithiasis (尿路結石症), neurosis (神経症)
8	-itis	～炎 (inflammation)	ギリシャ語	arthritis (関節炎)
9	-lith	結石 (stone, calculus)	ギリシャ語	urolith (尿路結石)
10	-logy	～学 (study)	ギリシャ語	ophthalmology (眼科学)
11	-lysis	溶解、分解 (dissolution)	ギリシャ語	hemolysis (溶血)
12	-megaly	肥大 (big)	ギリシャ語	cardiomegaly (心肥大)
13	-meter	～計 (meter)	ギリシャ語	thermometer (体温計、温度計)
14	-oma	腫瘍 (tumor)	ギリシャ語	melanoma (黒色腫)
15	-pathy	病気、～症 (disease)	ギリシャ語	cardiomyopathy (心筋症)
16	-penia	欠乏、減少 (deficiency)	ギリシャ語	leukopenia (白血球減少 (症))
17	-ptosis	下垂 (falling)	ギリシャ語	gastroptosis (胃下垂)
18	-rrhea	漏出、流出 (flow)	ギリシャ語	diarrhea (下痢)
19	-scopy	検査 (法) (method of examination)	ギリシャ語	endoscopy (内視鏡検査法)
20	-stomy / -tomy	切開術 (operation)	ギリシャ語	tracheotomy (気管切開術)
21	-therapy	治療、～療法 (therapy)	ギリシャ語	chemotherapy (化学療法)
22	-uria	尿の状態 (urinary condition)	ギリシャ語	hematuria (血尿)

(iv) 連結母音 (combining vowel)：語根と語根を結びつける際に、間に必ず付けられる母音 (o など)。例として、arteri-o-scler-osis (動脈硬化 (症)) など。ここでは語根である arteri と scler の間に o が挿入されている。また、接尾辞が子音で始まる場合は、語根と接尾辞の間にも付けられる。例として、angi-o-tomy (血管切開術) など。ここでは接尾辞の -tomy が子音で始まっているため、発音しやすいように、連結母音の o が挿入されている。

3.3. ギリシャ語・ラテン語由来の接辞についてのその他の知識

3.3.1. 接尾辞の複数形

英語では基本的に、複数形の名詞は単数形に -s や -es を付けるだけで良いことが多いが、ギリシャ語やラテン語由来の医学用語の場合は、接尾辞の

部分が英語よりも不規則な変化をする。ただあまり難しく考える必要はなく、次の表4の知識があるだけでも随分対応できるであろう。

[表4]

＜接尾辞＞	＜用例＞
単数形→複数形	単数形→複数形
-a→-ae (-as)	aorta→aortae (大動脈)
-is→-es	analysis→analyses (分析)
-ix→-ices (-ixes)	cervix→cervices (頸部)
-ma→-mata, -mas	schema→schemata (図表、概要)
-on→-a	phenomenon→phenomena (現象)
-um→-a	bacterium→bacteria (細菌)
-us→-i	fungus→fungi (真菌)

3.3.2. ギリシャ語とラテン語のいずれも使われるケース

3.2節で見たように、同じ「眼」という意味の語根でも、ギリシャ語由来は「ophthalm-」(表2-38)、そしてラテン語由来は「ocul-」(表2-37)と、二通りが使われる。また、「肺」はギリシャ語由来の「pneum-」(表2-45)とラテン語由来の「pulmo-」(表2-46)の二通りある。

これと同様に、「数」を表す接頭辞に関しても、ギリシャ語由来とラテン語由来の二種類の表記が用いられる。例えば、数字の「1」を表す接頭辞はギリシャ語由来ではmono-、ラテン語由来ではuni-であり、それぞれmonoxide (一酸化物)、unicellular (単細胞の) などという使われ方をする。そのため、ギリシャ語とラテン語のどちらも知識として持っておくと便利である。数字の1から5までを次の表5にまとめる。⁵

⁵ 数字の6～10に関しては、本稿では割愛するが、やはりそれぞれギリシャ語とラテン語の二通りの表記が存在する。

[表 5]

数	語源	接頭辞	用例
1	ギリシャ語	mono-	monoxide (一酸化物)
	ラテン語	uni-	unicellular (単細胞の)
2	ギリシャ語	di-	dioxide (二酸化物)
	ラテン語	bi-	bisexual (両性の)
3	ギリシャ語	tri-	triangle (三角形)
	ラテン語		
4	ギリシャ語	tetra-	tetraplegia (四肢麻痺)
	ラテン語	quadr-	quadriceps (大腿四頭筋)
5	ギリシャ語	penta-	pentagon (五角形)
	ラテン語	quinque-	quinquevalent (五価の)

4. 応用例

本節では、3節で見た形態素の知識が実際にどのように活用、応用されるかについて、接頭辞、語根、接尾辞の順に見ていく。便宜上、形態素の切れ目に- (ハイフン) を入れた表記とする。

まず、接頭辞のhyper-を例にとると、これは表1-12で見たように「基準値よりも高い」ことを意味するものであるが、この知識があれば、次の(1) a～e など、数多くの語の意味を理解する助けとなる。

- (1) a. hyper-glyc-emia(高血糖症)：hyper(高) + glyc(糖) + emia(血液の状態)
- b. hyper-lipid-emia(高脂血症)：hyper(高) + lipid(脂質) + emia(血液の状態)
- c. hyper-sensitivity(過敏症(性))：hyper(高) + sensitivity(感受性)
- d. hyper-tension(高血圧)：hyper(高) + tension(血圧)
- e. hyper-function(機能亢進)：hyper(高) + function(機能)

また、上の(1) a と(1) b で使われている-emia (表3-3) という接尾辞の知識は、次の(2) a ～(2) c などの語彙の知識へとつながっていく。

- (2) a. leuk-emia (白血病) : leuk (白) + emia (血液の状態)
- b. an-emia (貧血) : an (無、欠乏) + emia (血液の状態)
- c. ur-emia (尿毒症) : ur- (尿) + emia (血液の状態)

ちなみに、(1) c の sensitivity や (1) d の tension、そして (1) e の function のように、接辞と違い、それ単独でも語として成立する形態素 (自由形態素 (free morpheme) という) が使われることもある。

次に、語根について見る。例えば gastr- (胃) (表 2-23) という知識があれば、-algia (痛み) (表 3-1) という知識と組み合わせることにより、辞書をひかなくても、(3) a の「gastralgia」が「胃痛」という意味であると推測することができる。(3) b-e も同様である。

- (3) a. gastr-algia (胃痛) : gastr (胃) + algia (痛み)
- b. gastr-itis (胃炎) : gastr (胃) + itis (～炎)
- c. gastr-o-enter-itis (胃腸炎) : gastr (胃) + o (連結母音) + enter (腸) + itis (～炎)
- d. gastr-ectomy (胃切除術) : gastr (胃) + ectomy (切除術)
- e. gastr-o-ptosis (胃下垂) : gastr (胃) + o (連結母音) + ptosis (下垂)

そして、この(3) a で使われている -algia (表 3-1) は、次の(4) a ～(4) c のような語などにも応用される。

- (4) a. arthr-algia (関節痛) : arthr (関節) + algia (痛み)
- b. neur-algia (神経痛) : neur (神経) + algia (痛み)
- c. pharyng-algia (咽頭痛) : pharyng (咽頭) + algia (痛み)

最後に、接尾辞について見る。例えば上の(3)bでも使われている -itis (～炎) (表3-8) の知識があれば、次の(5)a～(5)eのような語の意味を理解しやすく、覚えやすい。

- (5) a. hepat-itis (肝炎) : hepat (肝臓) + itis (～炎)
- b. arthr-itis (関節炎) : arthr (関節) + itis (～炎)
- c. bronch-itis (気管支炎) : bronch (気管支) + itis (～炎)
- d. cyst-itis (膀胱炎) : cyst (膀胱) + itis (～炎)
- e. arter-itis (動脈炎) : arter (動脈) + itis (～炎)

そして(5)aで使われている hepat- (表2-26) の知識は、次の(6)a～(6)cのような語の理解へとつながっていく。

- (6) a. hepatology (肝臓学) : hepat (肝臓) + o (連結母音) + logy (～学)
- b. hepatoma (肝癌) : hepat (肝臓) + oma (腫瘍)
- c. hepatectomy (肝切除術) : hepat (肝臓) + ectomy (切除術)

このように、形態素に関する少量の知識が、芋づる式に無限の語の知識に広がっていくというのが、この学習方法の最大の利点である。

5. おわりに

本稿では、多忙な医学生が効率良く、そして確実に医学英語の語彙力を付けるための近道について考察してきた。すなわち、英語の医学用語は、ギリシャ語やラテン語の影響を受けた接頭辞や語根、接尾辞から成っており、単語ではなく、それら形態素についての知識を身につけるという学習方法である。

この学習方法を用いると、短期間で覚えた少量の知識を基に、大量の語彙力を習得することができるという利点がある。そして、それらの接辞はさまざまな形で頻繁に使われるため、授業に出てくるたびに教員が解説することで、学生の記憶の定着を助けることもできる。また、初めて目にした単語でも、形態素の知識を使って意味を推測することができるという利点もある。本稿で扱ってきた形態素は、比較的よく使われるものに限定したが、そのような限定をせずにさらに知識を広げていけば、例えば otorhinolaryngology（耳鼻咽喉科（学））、hysterosalpingo-oophorectomy（子宮卵管卵巣摘出術）といった非常に長い単語も、辞書をひかずに意味が取れるようになるであろう。

<参考文献>

- ・伊藤たかね、杉岡洋子（2002）、「語の仕組みと語形成（英語学モノグラフシリーズ16）」、研究社
- ・岡田聚他（2014）、「最新医学用語演習」（南雲堂）
- ・小林充尚（1988）、「医学英語語源の基礎」、朝倉書店
- ・酒井玲子（2015）、「接頭辞・接尾辞大全」、国際語学社
- ・佐藤登志郎他編（2005）、「医学英和大辞典第12版」、南山堂
- ・清水雅子、日本医学英語教育学会編（2011）、「講義録 医学英語Ⅰ」、メジカルビュー社
- ・ステッドマン医学大辞典編集委員会（2008）、「ステッドマン医学大辞典改訂6版」、メジカルビュー社
- ・津波古澄子、マリオン・ゾボスキー（2011）、「基本の101語を組み合わせるで学ぶ医学英語」、日本看護協会出版会
- ・日本医学英語教育学会編（2015）、「日本医学英語検定試験3・4級教本」、メジカルビュー社
- ・原口庄輔他編（2016）、「増補版チョムスキー理論辞典」、研究社
- ・平井美津子（2011）、「語源で学ぶメディカル・イングリッシュ550」、南雲堂
- ・吉田和彦（2008）、「語源で覚える医学英語辞典」、メジカルビュー社